

通信機は **λ979-D**

SR
STANDARD[®]

Downloaded by
RadioAmateur.EU

V&UHF WIDE BAND COMMUNICATION RECEIVER

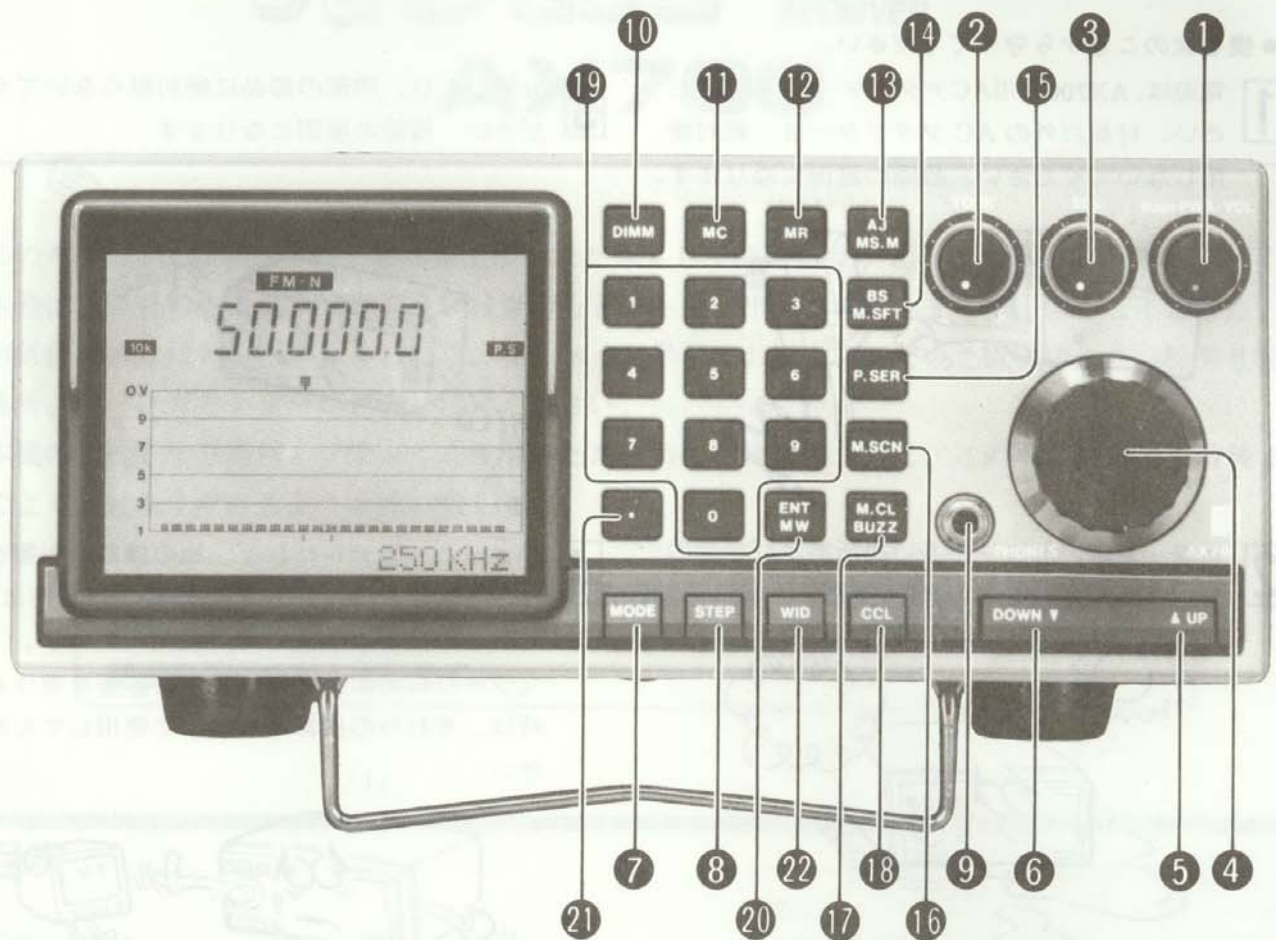
AX700

取扱説明書



日本マランツ株式会社

各部の名称および動作



1 PUSH PWR/VOL (電源スイッチ/音量ツマミ)

電源のON/OFFと音量調節をするツマミです。このツマミを押すと電源がONになりもう一度押すとOFFになります。また時計方向に回すと音量が大きくなり、反時計方向に回すと音量が小さくなります。



2 TONE (音質調整ツマミ)

スピーカーからの音質を調節するツマミです。時計方向に回すと高音が強調されます、反時計方向に回すと低音が強調されます。通常は中央の位置にしてご使用ください。



3 SQL (スケルチツマミ)

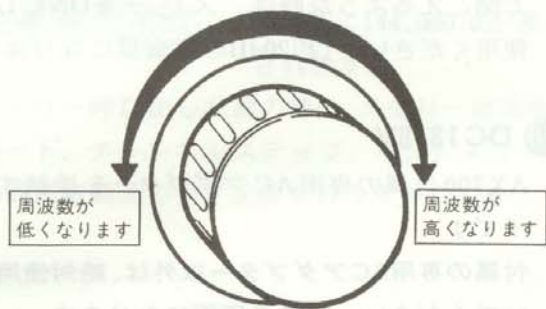
FM特有のザーというノイズ音を消すツマミです。本機では、FM-N(ナロー)とAMの各モードで有効です。尚、FM-W(ワイド)の時は、後面のW-MUTEを調整します。弱い電波を受信する時は、反時計方向に回し切ってください。



通常は、ザーというノイズ音がでなくなるまで、時計方向に回してください。時計方向に回し過ぎると、弱い電波が受信できなくなりますので、時計方向に回し過ぎないでください。

4 ロータリーチャンネルセレクトーツマミ

希望の周波数に合わせるツマミです。
時計方向に回すと周波数が高くなります。反時計方向に回すと周波数が低くなります。
表示部にMが表示されている時回すとメモリアドレス番号を順次呼び出します。



5 UP(アップボタン)

ボタンを押すと周波数が増加(高い方に)します。
押し続けると連続して周波数が増加(高い方に)します。
表示部にMが表示されている時押し続けるとメモリアドレス番号を順次呼び出します。

6 DOWN(ダウンボタン)

ボタンを押すと周波数が減少(低い方に)します。
押し続けると連続して周波数が減少(低い方に)します。
表示部にMが表示されている時押し続けるとメモリアドレス番号を順次呼び出します。

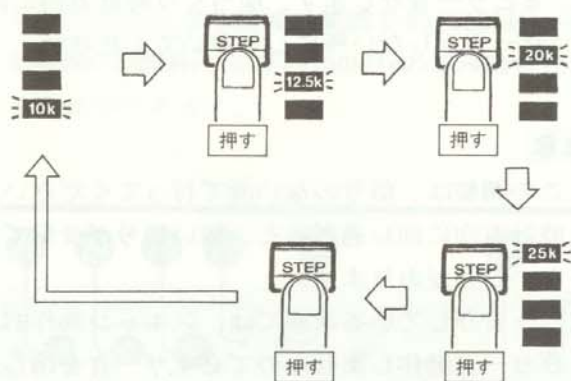


7 MODE(モードボタン)

受信したい周波数のモードに合わせるボタンです。
MODEボタンを押す毎に順次、次の3種が表示部に表示されます。
モードは3種類あります。
FM-W—FM放送、TV放送(音声のみ)を受信する場合
FM-N—アマチュア無線、マリバンド等を受信する場合
AM—エアーバンド等を受信する場合

8 STEP(ステップボタン)

周波数の変化量(チャンネルステップ)を変えるボタンです。
ロータリーチャンネルセレクトーツマミを1回まわした時変化する量または、UP/DOWNボタンを一回押した時変化する量をチャンネルステップと言います。
本機では、10kHz、12.5kHz、20kHz、25kHzの4段階と1kHz(AJ動作時)及び5kHz(AJ動作時のUP/DOWNキー)の6種類設定されています。



9 PHONES(ヘッドホン端子)

市販のモノラルヘッドホンあるいは、イヤホンを接続する端子(3.5mmジャック)です。

10 DIMM(ディマーボタン)

表示部の明るさを2段階に変えるボタンです。
一度押しすると暗くなり、もう一度押しすると元の明るさになります。
(工場出荷時は、明るい状態に設定されています)

11 MC(メモリーチェンジボタン)

メモリーされた周波数を変更する時使用するボタンです。
メモリー呼び出し状態の時、このボタンを押すと表示部にMemory Change. Start Change. またはEnd Change.のいずれかが表示されメモリー周波数の書き換え状態を示します。

周波数の書き換え状態の時は、数字ボタン、ロータリーチャンネルセレクトーツマミUP/DOWNボタンで周波数を変更できます。

20 ENT/MW(エンターボタンおよびメモリーエンターボタン)

数字ボタンで周波数設定途中このボタンを押すと以後の数字が“0”となり、同時に周波数設定が完了します。

使用例：

① 4 4 ◻ ENT ……表示部に144.000.0が表示されます。

メモリー呼び出し状態の時は、メモリー周波数、モード、チャンネルステップ、バンドスコープの周波数範囲の書き込みを行うボタンです。

21 ◻ (数字ボタンで周波数を設定する場合のMHz用ボタン)

数字ボタンで周波数を設定する時のボタンです。

例：84.700MHzを数字ボタンで設定する場合
ボタンを押す順序

8 4 ◻ 7 0 0 0

22 WID (バンドスコープの周波数範囲を3段階に設定するボタン)

バンドスコープの周波数範囲を約1000kHz、約250kHz/260kHz、及び約100kHzの3段階にかえることができます。

後面

23 REC (録音端子)

テープレコーダーに録音する場合は、この端子とテープレコーダーのMIC端子を接続してください。なお詳細については、テープレコーダーの取扱説明書をお読みください。

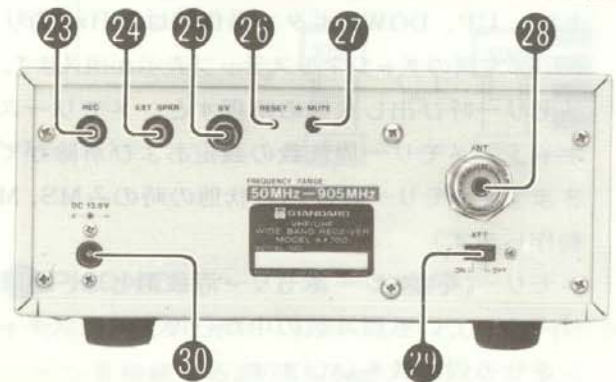
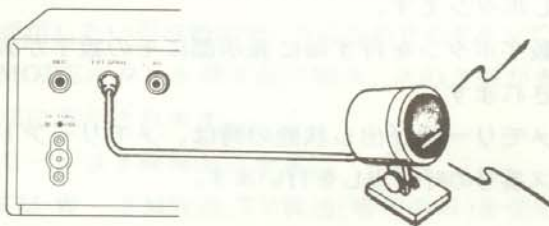
出力レベルは、約30mV/100kΩです。

プラグは、直径3.5mmのものをご使用ください。

24 EXT. SPKR (外部スピーカー端子)

外部のスピーカーを使用される場合は、この端子に別のスピーカー(8オームのもの)を接続してください。

プラグは、直径3.5mmのものをご使用ください。



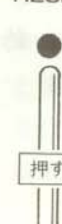
25 8V (DC 8V 出力端子)

DC 8V(最大40mA)が取り出せる出力端子です。絶対他の電圧は加えたり、ショートさせないでください。故障の原因になります。

26 RESET (リセットボタン)

表示部の表示が異常の時(マイコンが誤動作した時)または、内蔵されていますバックアップ用リチウム電池を交換した時はこのボタンを押してください。

RESET



注意

このボタンを押すと、既にメモリーしてある内容は全て消されます。

主なバンドの受信方法

1. FM放送の受信方法

手順

- 1 MODEボタンを押して、表示部にFM-Wを表示させます。
このボタンを押す毎にFM-W、FM-N、AMと繰り返し表示されます。
- 2 数字ボタンで、お近くのFM放送局の周波数にあわせてください。

FM横浜の場合：

- 1 8 4 . 7 0 0 0 の順でボタンを押します。
最後の0を押し終わるとピー音がして設定が完了したことを知らせます。
- 3 設定が完了と同時にFM放送がスピーカーより聞こえてきます。

注意

周波数設定時、最初に押すボタンは0以外の数字にしてください。
数字ボタンの0を押すとブーというブザー音がして操作を受け付けません。

アドバイス

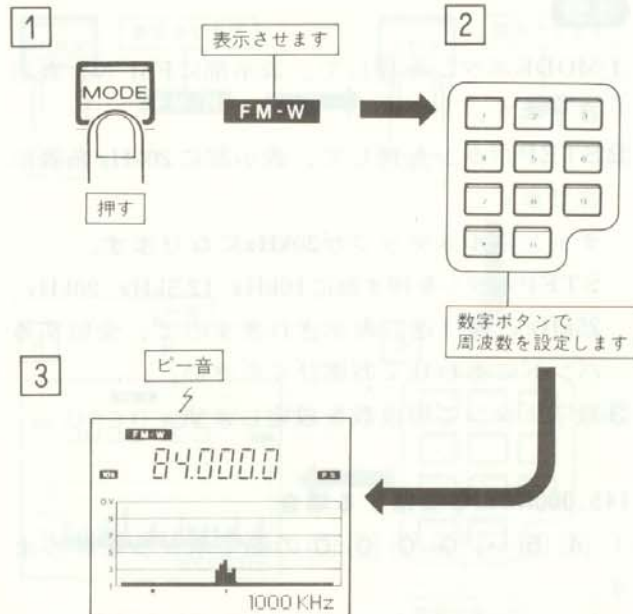
1. ロータリーチャンネルツマミを回して周波数を合わせることもできます。また、UPおよびDOWNボタンを使って周波数を合わせることもできますので用途に合わせてご使用ください。

(バンドスコープ機能を使って周波数合わせもできます。14ページ参照)

2. 正確に放送局の周波数に合わせる時は、AJ/MS、Mボタンを押してロータリーチャンネルセレクトーツマミにあわせてください。

表示部の10kHzの表示が消え、AJが表示されチャンネルステップが1kHzになります。

周波数設定が終わりましたら、もう一度AJ/MS、Mボタンを押して元のチャンネルステップに戻しておいてください。



AJが表示部に表示されている時に、UPおよびDOWNボタンを押すと5kHzのチャンネルステップで周波数が変化します。

- 4 途中で周波数設定を止める時は、CCLボタンを押してください。
設定前の周波数に戻ります。

注意

FM放送を受信する場合は、FM-Wが表示部に表示している状態にしてください。

アマチュアバンドの受信方法

144MHz帯を受信する場合

手順

- 1 MODEボタンを押して、表示部にFM-Nを表示させます。
- 2 STEPボタンを押して、表示部に20kHzを表示させます。
チャンネルステップが20kHzになります。
STEPボタンを押す毎に10kHz、12.5kHz、20kHz、25kHzと繰り返し表示されますので、受信するバンドにあわせてお選びください。
- 3 数字ボタンで周波数を設定します。

145.000MHzを受信する場合

- 1 4 5 . 0 0 0 0 の順でボタンを押します。

439.520MHzを受信する場合

- 4 3 9 . 5 2 0 0 の順でボタンを押します。
最後の0を押すと、ピーというブザー音がして、設定が終わったことを知らせます。

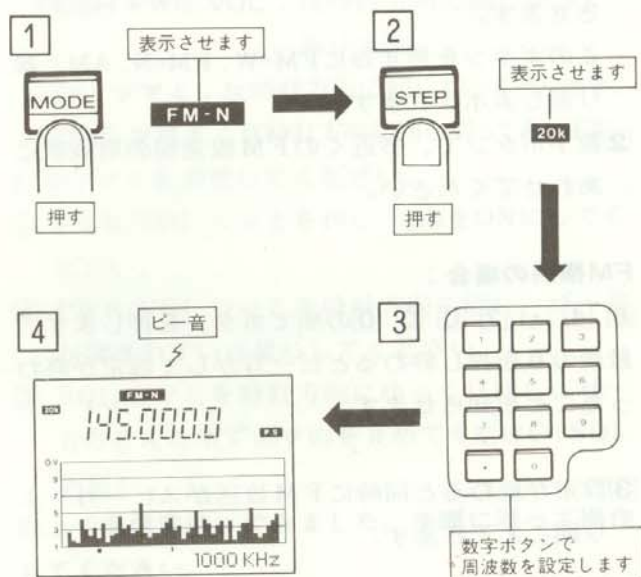
注意

FM放送およびTV放送(音声のみ)以外のFM信号を受信する場合は、表示部にFM-Nを表示しておいてください。

50MHz帯のAM信号を受信する場合

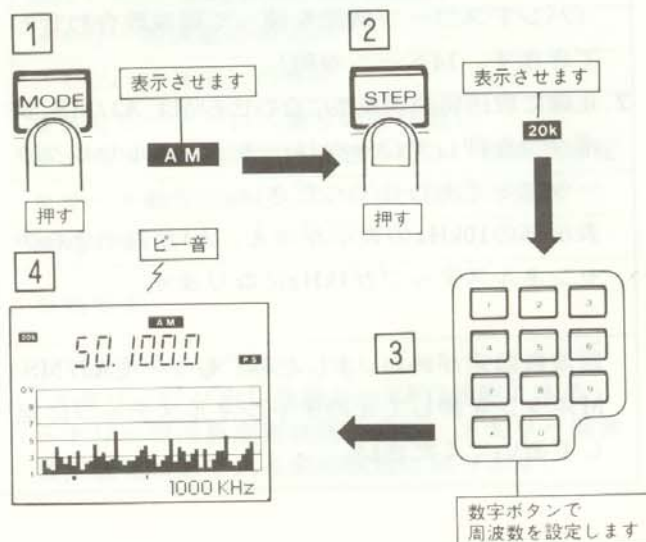
手順

- 1 MODEボタンを押して、表示部にAMを表示させます。
- 2 STEPボタンを押して、表示部に20kHzを表示させます。
チャンネルステップが20kHzになります。
- 3 数字ボタンで周波数を設定します。
5 0 . 1 0 0 0 の順でボタンを押します。
最後の0を押すと、ピーというブザー音がして、設定が終わったことを知らせます。



アドバイス

1. アマチュアバンドの周波数は下記の通りです。
50MHz帯: 50.000MHzから 54.000MHzまで。
144MHz帯: 144.000MHzから 146.000MHzまで。
430MHz帯: 430.000MHzから 440.000MHzまで。
2. アマチュアバンドを受信する時は、チャンネルステップは20kHzに設定しておいてください。

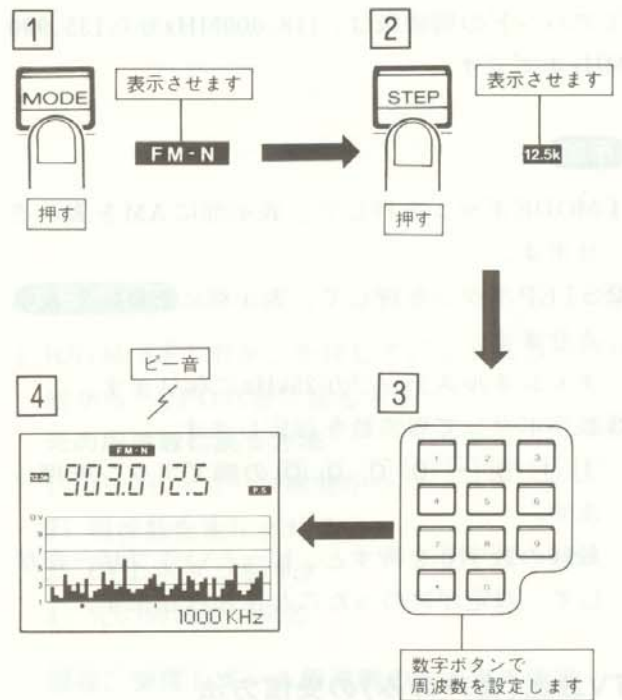


パーソナルバンドの受信方法

パーソナルバンドの周波数は、903.0125MHzから904.9875MHzまでです。

手順

- ①MODEボタンを押して、表示部にFM-Nを表示させます。
- ②STEPボタンを押してチャンネルステップを12.5kHzにします。
- ③数字ボタンで周波数を設定します。
 $\text{[9] [0] [3] [.] [0] [1] [2] [5]}$ の順でボタンを押します。
 最後の数字 [5] を押すと、ピーというブザー音がして、設定が終わったことを知らせます。

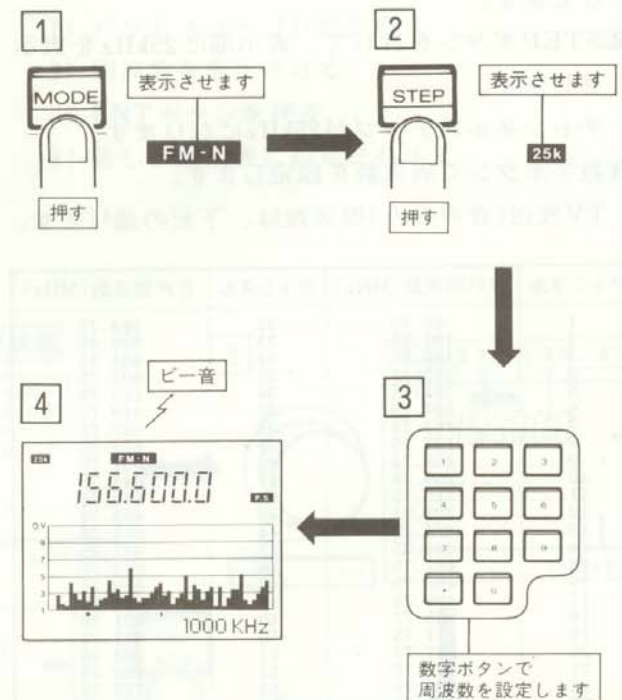


マリンバンドの受信方法

マリンバンドの周波数は、156.025MHzから163.275MHzまでで、国際的に周波数が固定されています。

手順

- ①MODEボタンを押して、表示部にFM-Nを表示させます。
- ②STEPボタンを押して、表示部に25kHzを表示させます。
 チャンネルステップが25kHzになります。
- ③数字ボタンで周波数を設定します。
 $\text{[1] [5] [6] [.] [6] [0] [0] [0]}$ の順でボタンを押します。
 最後の数字 [0] を押すと、ピーというブザー音がして、設定が終わったことを知らせます。

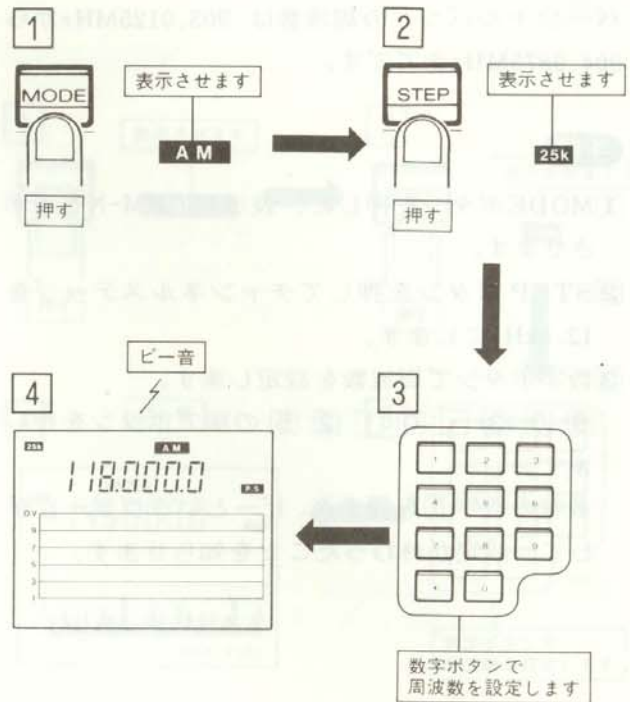


エアバンドの受信方法

エアバンドの周波数は、118.000MHzから135.990MHzまでです。

手順

- 1 MODEボタンを押して、表示部にAMを表示させます。
- 2 STEPボタンを押して、表示部に25kHzを表示させます。
チャンネルステップが25kHzになります。
- 3 数字ボタンで周波数を設定します。
1 1 8 . 0 0 0 0 の順でボタンを押します。
最後の数字0を押すと、ピーというブザー音がして、設定が終わったことを知らせます。

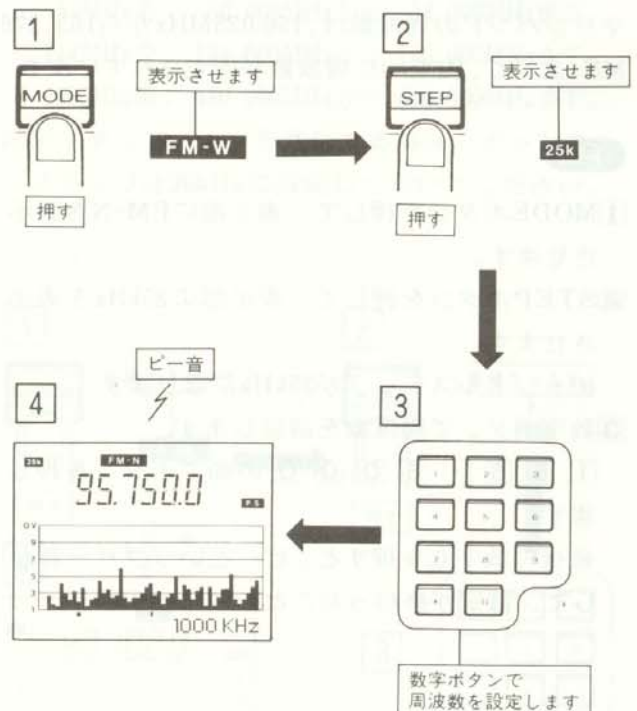


TV放送(音声のみ)の受信方法

TV放送(音声のみ)の周波数は、95.750MHzから769.750MHzまでです。

手順

- 1 MODEボタンを押して、表示部にFM-Wを表示させます。
- 2 STEPボタンを押して、表示部に25kHzを表示させます。
チャンネルステップが25kHzになります。
- 3 数字ボタンで周波数を設定します。
TV放送(音声のみ)周波数は、下記の通りです。



チャンネル	音声周波数(MHz)	チャンネル	音声周波数(MHz)
1	95.75	32	589.75
2	101.75	33	595.75
3	107.75	34	601.75
4	175.75	35	607.75
5	181.75	36	613.75
6	187.75	37	619.75
7	193.75	38	625.75
8	197.75	39	631.75
9	203.75	40	637.75
10	209.75	41	643.75
11	215.75	42	649.75
12	221.75	43	655.75
13	475.75	44	661.75
14	481.75	45	667.75
15	487.75	46	673.75
16	493.75	47	679.75
17	499.75	48	685.75
18	505.75	49	691.75
19	511.75	50	697.75
20	517.75	51	703.75
21	523.75	52	709.75
22	529.75	53	715.75
23	535.75	54	721.75
24	541.75	55	727.75
25	547.75	56	733.75
26	553.75	57	739.75
27	559.75	58	745.75
28	565.75	59	751.75
29	571.75	60	757.75
30	577.75	61	763.75
31	583.75	62	769.75

便利な操作方法

バンドスコープを使って周波数を設定して受信する方法

数字ボタンおよびロータリーチャンネルツマミで周波数を設定する方法以外にもバンドスコープを使った周波数の設定方法があります。

バンドスコープとは、ある周波数範囲の中での、信号の有無を目で見ることが出来る装置のことです。

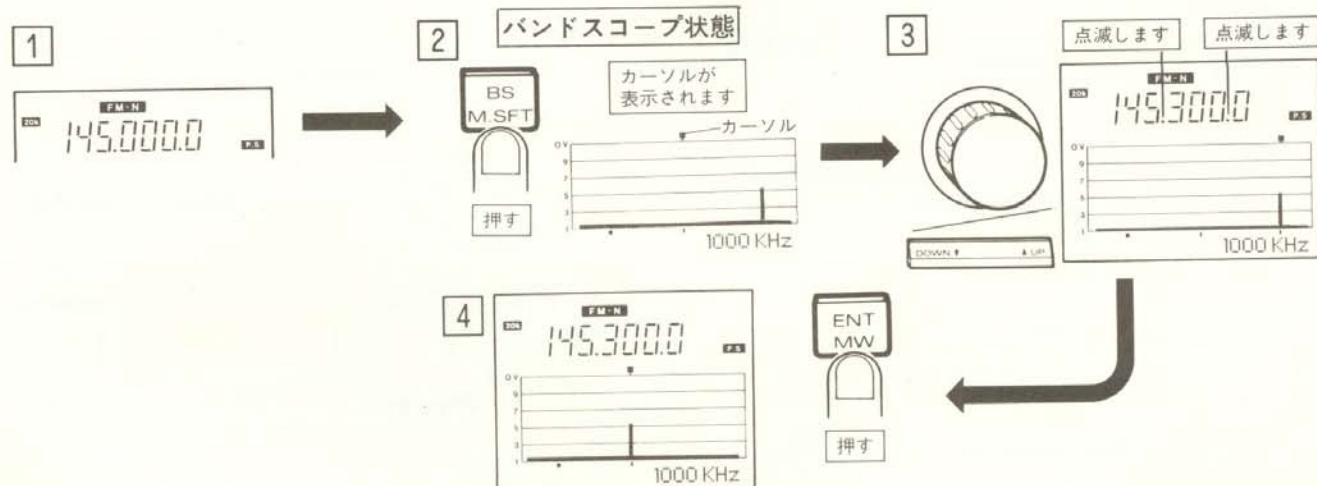
アマチュアバンドを受信する方法

手順

- 1) 144MHz帯の場合は、呼び出し周波数の145.000.0を表示部に表示させます。
- 2) BS/M. SFT ボタンを押すと、バンドスコープ上部中央にカーソルが表示されます。
- 3) バンドスコープ上に現われた黒く上下する所にロータリーチャンネルツマミまたは、UP/DOWN ボタンでカーソルを移動します。
カーソルを移動すると表示部下にあるカーソルも上部のカーソルと同期して動きます。
(表示部の周波数表示は変化しますが、受信している周波数は変化しません。)
センターマークとカーソルがずれると、MHz、およびkHz台のドットが点滅します。
センターマークとカーソルが一致すると、MHz、およびkHz台のドットが点灯します。
- 4) ENT ボタンを押すとカーソルを移動した所の周波数に設定され、且つその周波数がセンターマークに移動し、周波数表示も設定された周波数になります。
各バンドを上記の要領で周波数が設定できます。

アドバイス

1. BS/M. SFT ボタンを押してバンドスコープ状態から、VFO状態に戻る方法
元の周波数に戻る方法
 - 1) バンドスコープ状態から
 - 2) 周波数を変化させる
 - 3) CCL ボタンを押す
 - 4) 元の周波数に戻る
- 現在、受信している周波数のまま戻する方法
 - 1) バンドスコープ状態から
 - 2) 周波数を変化させる
 - 3) BS/M. SET ボタンを押す
 - 4) 現在、受信している周波数のままVFOに戻る
2. 新しく設定した周波数にする方法
 - 1) バンドスコープ状態から
 - 2) 周波数を変化させる
 - 3) ENT ボタンを押す
 - 4) 新しい周波数に設定されます



バンドスコープについて

バンドスコープとは、ある周波数範囲の中での、信号の有無を目で見る事ができる装置の事です。AX700では、約1000kHz、約250kHz、(約260kHz)、約100kHzの受信周波数帯域幅の中に幾つの信号があるかを目で見る事ができます。

信号を受信するとバンドスコープ上の目盛り1から0Vに向かって黒い線が上下しますので信号の有無が即座に確認できます。

上下する量は信号の強さに比例します。即ち1から0V近くまで上がった場合は、強い信号ということになります。



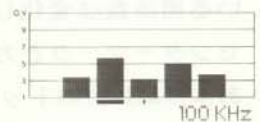
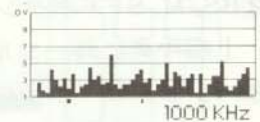
表示部に1000kHzと10Kステップが表示されている時は、430.000.0kHzを中心として-490kHzから+500kHz内にある電波がバンドスコープ上に表示されます。

バンドスコープの受信周波数帯域幅切り換え方法

手順

- 1) 受信周波数帯域幅を変える時は、WIDボタンを押します。

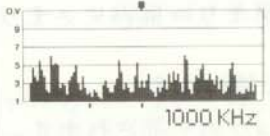
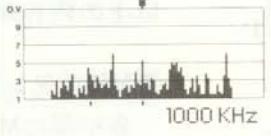
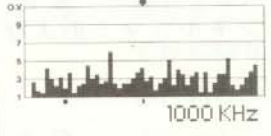
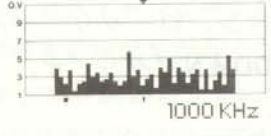
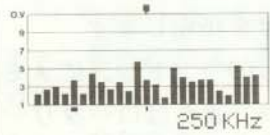
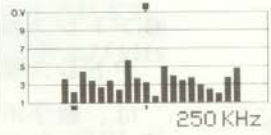
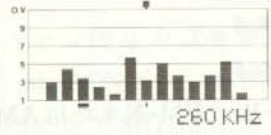
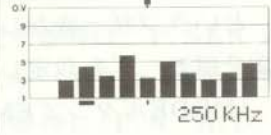
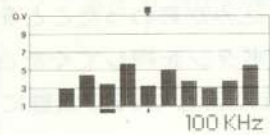
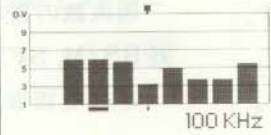
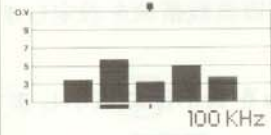
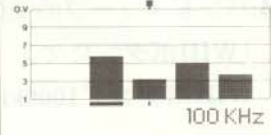
WIDボタンを押す毎に、表示部右下の表示が1000kHz、250kHz、100kHz、250kHz、1000kHzと繰り返し表示されます。あまり信号の多くないバンドを受信する場合は、1000kHzにてご使用ください。



注意

- 1) チャンネルステップが20kHzの時は受信周波数帯域幅が260kHzになります。
- 2) バンドスコープには、チャンネルステップごとの信号が表示されるので、チャンネルステップ間にある信号は表示されません。

バンドスコープ帯域幅及び表示スタイル

		受信周波数ステップ			
		10kHz	12.5kHz	20kHz	25kHz
バンド スコープ 受信帯域 幅	1000kHz	<p>X-490.0kHz～ X+500.0kHz</p> <p>100本 (100dots) 1dots スペース 0dots</p> 	<p>X-487.5kHz～ X+500.0kHz</p> <p>100本 (100dots) 1dots スペース 0dots</p> 	<p>X-480.0kHz～ X+500.0kHz</p> <p>100本 (100dots) 2dots スペース 0dots</p> 	<p>X-475.0kHz～ X+500.0kHz</p> <p>100本 (100dots) 2dots スペース 0dots</p> 
	250kHz 260kHz	<p>X-120.0kHz～ X+120.0kHz</p> <p>25本 (100dots) 3dots スペース 1dots</p> 	<p>X-112.5kHz～ X+125.0kHz</p> <p>20本 (80dots) 3dots スペース 1dots</p> 	<p>X-120.0kHz～ X+120.0kHz</p> <p>13本 (91dots) 5dots スペース 2dots</p> 	<p>X-100.0kHz～ X+125.0kHz</p> <p>10本 (90dots) 7dots スペース 2dots</p> 
	100kHz	<p>X-40.0kHz～ X+50.0kHz</p> <p>10本 (90dots) 7dots スペース 2dots</p> 	<p>X-37.5kHz～ X+50.0kHz</p> <p>8本 (88dots) 9dots スペース 2dots</p> 	<p>X-40.0kHz～ X+40.0kHz</p> <p>5本 (80dots) 13dots スペース 3dots</p> 	<p>X-25.0kHz～ X+50.0kHz</p> <p>4本 (76dots) 15dots スペース 4dots</p> 

注記 Xは受信周波数

受信頻度の高い周波数をスピーディーに呼び出す方法

スキャン機能を使用します

受信頻度の高い周波数を予めメモリー回路にメモリーしておくことにより、スピーディーに希望の周波数を呼び出すことができます。

周波数をメモリー回路にメモリーする方法

使用するボタンは、MR、ENT/MWおよび数字ボタン、ロータリーチャンネルツマミおよびUP/DOWNボタンです。

手順

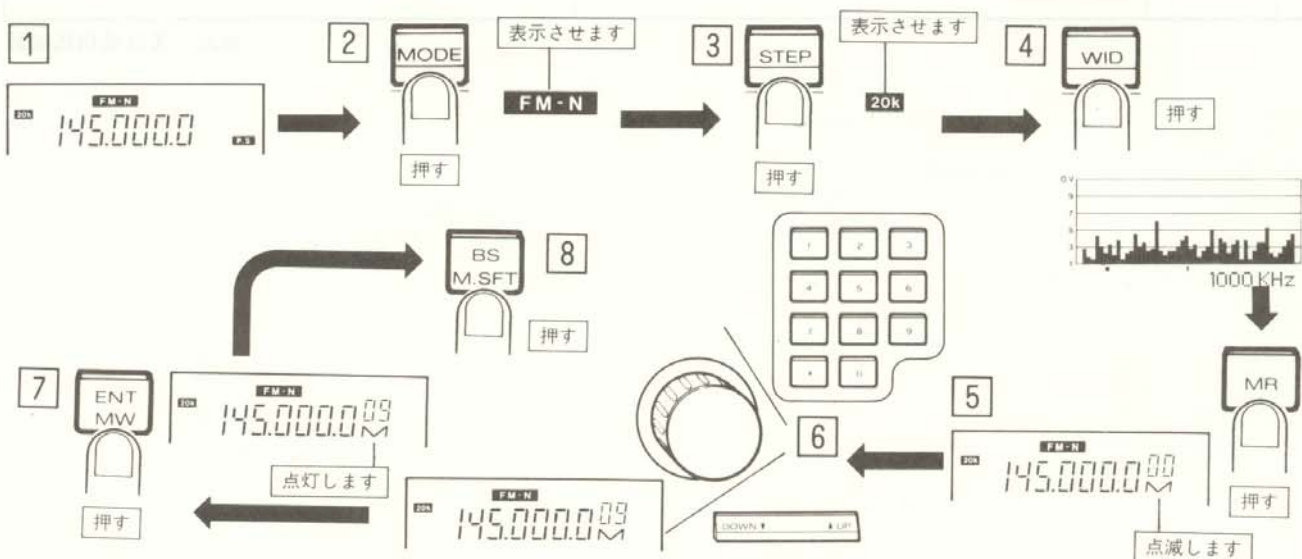
アマチュアバンドの周波数145.000MHzをメモリーアドレス番号09にメモリーしてみましょう。

- 受信周波数145.000を表示部に表示します。
数字ボタンを次の順に押します。
1 4 5 . 0 0 0 0 0 を押し終わるとピーというブザー音がします。
- 受信モードを設定します。
(MODEボタンでFM-W、FM-NまたはAMに)
MODEボタンを押し、アマチュアバンドの場合は、FM-Nを表示部に表示します。
- チャンネルステップを設定します。
(STEPボタンにて)
アマチュアバンドの場合は、20kHz(20kHzステップ)を表示部に表示します。
- バンドスコープの受信周波数帯域を設定します。
(WIDボタンにて)
WIDボタンで1000kHzを表示部に表示します。

AX700には、00から99(アドレス番号)までの100種類の周波数をメモリーできるメモリー機能があります。周波数をメモリーしたアドレス番号を指定することにより、希望周波数が呼び出せます。

アドバイス

- 3と4は初期値のままでも可能です。
以上の内容がメモリー回路にメモリーされます。
- MRボタンを押します。
表示部にMxxが表示部されます。
(xxは任意の数字です)
この状態をメモリー呼び出し状態といいます。周波数がメモリーされていないアドレス番号の時は、Mが点滅します。周波数がメモリーされているアドレス番号の時は、Mが点灯します。
- アドレス番号を指定します。
アドレス番号09空アドレスにメモリーする場合は、数字ボタンまたはロータリーチャンネルセレクターツマミおよびUP/DOWNボタンで09を表示してください。
アドレス番号は、数字ボタンまたは、ロータリーチャンネルツマミ、およびUP/DOWNボタンで自由にかえることができます。
- ENT/MWボタンを押すとピー音がしてメモリー周波数の書き込みが終わったことを知らせます。
- BS/M. SFTボタンを押してください。メモリーされた周波数の状態でVFO状態になります。



メモリーした周波数を全て連続的に呼び出す方法

メモリースキャン機能を使います。

メモリースキャン機能とは、メモリーされた周波数を連続的に呼び出す機能です。

メモリースキャン動作を一時停止するには、M. SCN ボタンをもう一度押してください。

一時停止中は、ドットの点滅する間隔が早くなります。

AX700のスキャン方式については、アドバイスを参照してください。

手順

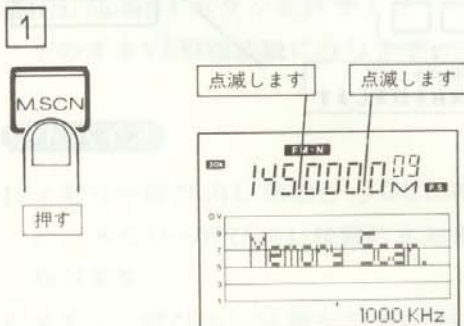
①VFO状態の時M. SCNボタンを押すとメモリースキャン動作になります。

メモリーアドレス番号とMが順次表示され且つ、バンドスコープにMemory Scan.と表示されます。メモリースキャン動作の時は、MHzおよびkHzのドットが点滅して知らせます。

②メモリースキャン動作を解除するには、CCLボタンまたは、BS/M. SFT、又はENT/MWボタンを押します。

CCLボタンで解除する場合は、メモリースキャンに入る前の状態に戻ります。

BS/M. SFT又は、ENT/MWボタンで解除する場合は、メモリースキャン中の周波数でVFOに戻ります。



アドバイス

1.メモリーされていないアドレス番号はスキップします。

2.スキャンおよびサーチ停止方式には、次の4種類があります。

1) P. S : 信号を受信し一旦スキャンが停止してから約5秒後または信号がなくなると再びスキャンを開始します。

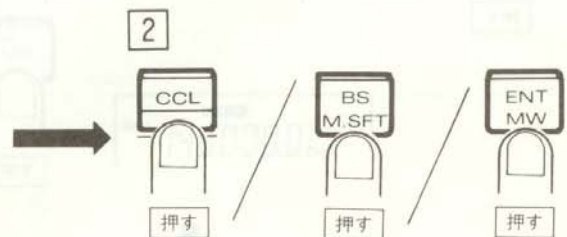
2) A. D : スピーカーからの音がなくなってから約2秒後または、信号がなくなると再びスキャンを開始します。

3) HOLD : 信号を受信してから約2秒後にスキャンが停止します。

4) DLY : 信号が無くなってから約2秒後にスキャンを開始します。

スキャン停止方式を変更する時は、P. SER又は、M. SCNボタンを押しサーチ又は、スキャン動作にしてMODEボタンを押し(P. S、A. D、HOLD、DLYが順次表示されます)ENT/MWボタンを押すと変更できます。

この時、ENT/MWボタンを押さないと一時的な変更になります。



受信周波数の高い周波数帯をメモリー周波数として呼び出す方法

メモリー周波数の変更方法

メモリー周波数の変更は次の手順で行ってください。

手順

①MR ボタンを押して数字ボタンまたは、ロータリーチャンネルツマミ、およびUP/DOWNボタンで変更したいメモリーアドレス番号を呼び出します。

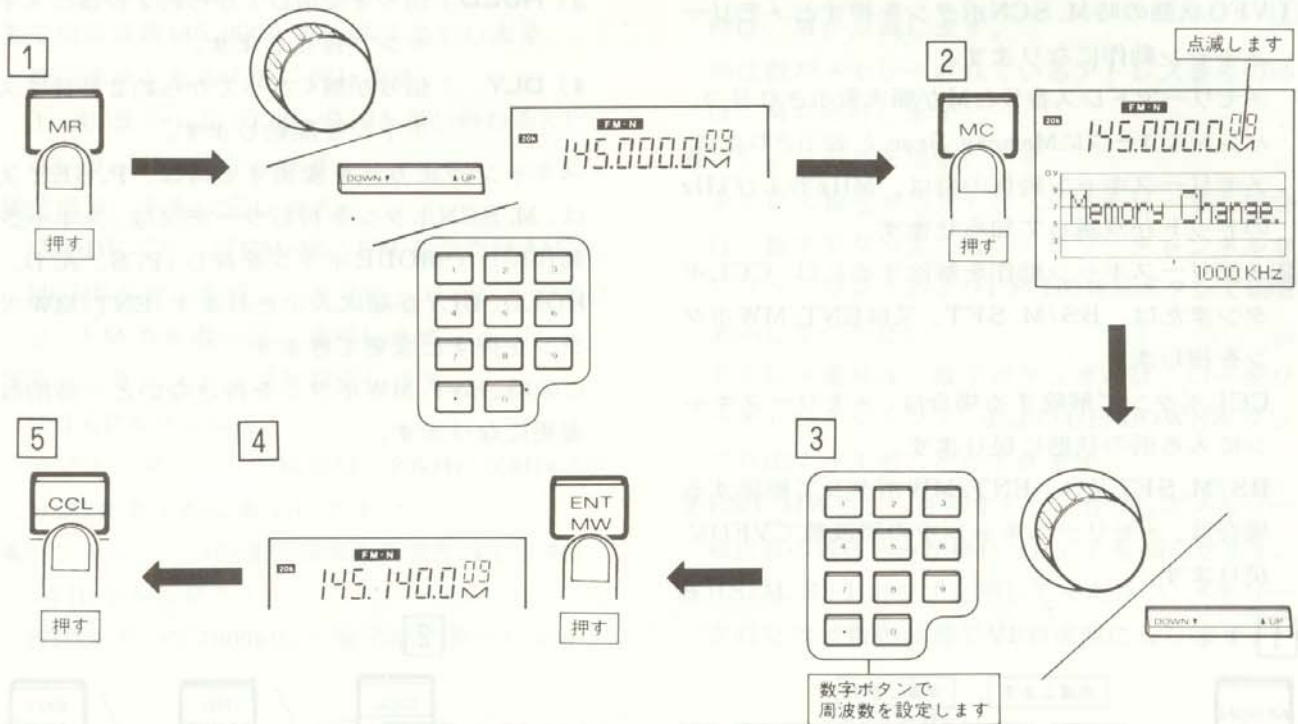
②MC ボタンを押します。

表示部のMが点灯から点滅に変わり且つ、バンドスコープにMemory Change.と表示されます。

③数字ボタン、ロータリーチャンネルセレクターツマミおよびUP/DOWNボタンにて周波数を変更してください。

④ENT/MWボタンを押すと、ピーというブザー音がして、周波数の変更が完了します。

⑤CCLボタンを押してVFO状態にします。



メモリー周波数の消去方法

メモリー周波数の消去は次の手順で行ってください。

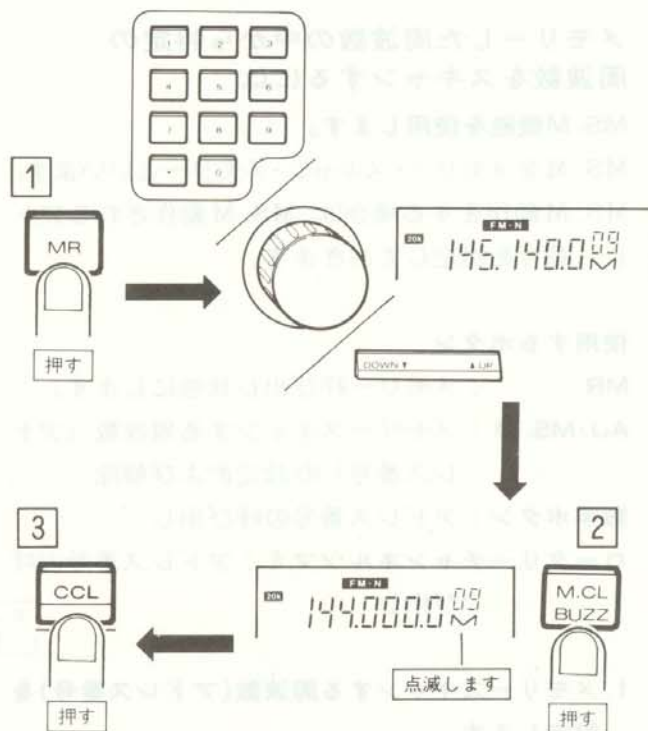
手順

①MR ボタンを押した後、数字ボタンまたは、ロータリーチャンネルセレクトーツマミ、および UP/DOWNボタンで消去したいメモリーアドレス番号を呼び出します。

②M. CLボタンを押します。

表示部のMが点灯から点滅に変わり且つ、表示周波数は、メモリー呼び出し状態にする前の周波数が表示されます。

③CCLボタンを押しVFO状態にします。



メモリー呼び出し周波数を、そのままVFO周波数にする方法

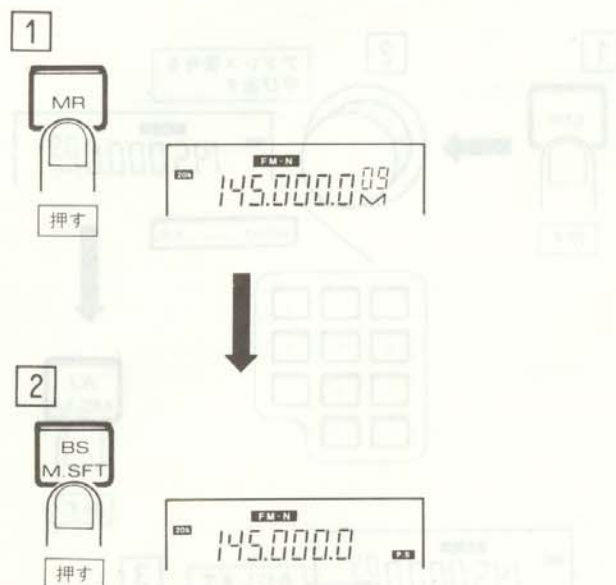
手順

①MRボタンを押しメモリー呼び出し状態にします。

②BS/M. SFTボタンを押すとメモリー周波数がそのままVFO周波数になります。

アドバイス

- メモリー呼び出し状態からCCLボタンを押すと、メモリー呼び出し状態にする前の周波数になります。
- メモリー呼び出し状態からBS/M. SFTボタンを押すと、表示されている周波数のまま、VFO状態になります。



メモリーした周波数の中から特定の周波数をスキャンするには

MS. M機能を使用します。

MS. Mをメモリー・スキャン・メモリーといいます。MS. M動作をする場合は、MS. M動作されるアドレス番号を指定しておきます。

使用するボタン

MR :メモリー呼び出し状態にします。

AJ/MS. M :メモリースキャンする周波数(アドレス番号)の設定および解除

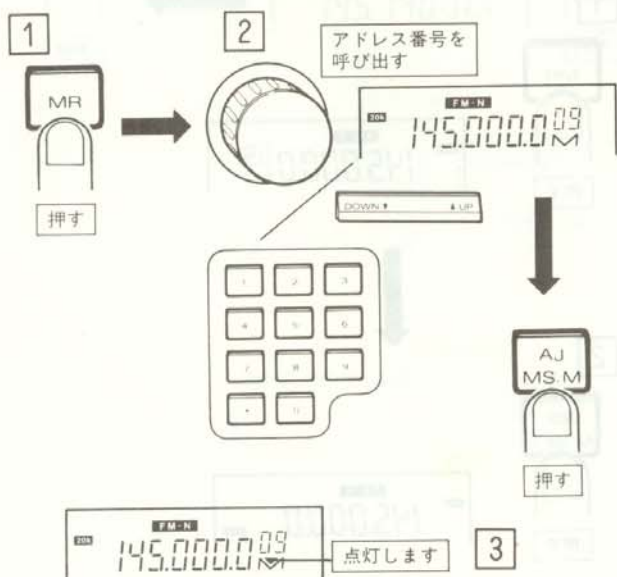
数字ボタン :アドレス番号の呼び出し

ロータリーチャンネルツマミ :アドレス番号の呼び出し

1.メモリースキャンする周波数(アドレス番号)を設定します。

手順

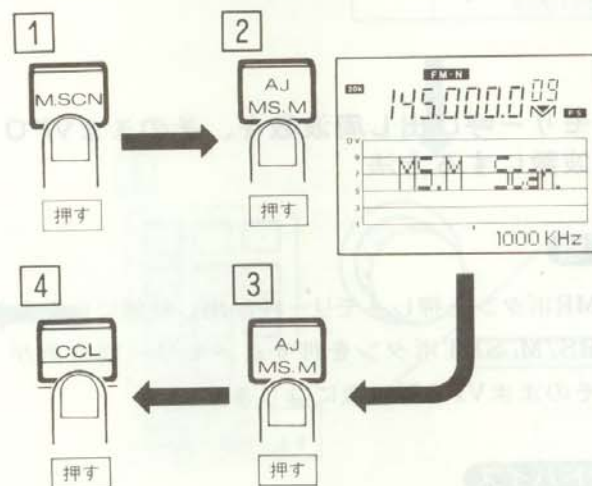
- ①MRボタンを押しメモリー呼び出し状態にします。
- ②メモリースキャン・メモリーを行うアドレス番号を呼び出します。
- ③AJ/MS. Mボタンを押すと、Mの上に▼が点灯します。
- ④これで設定完了です。
- ⑤CCLボタンを押すと元のVFO状態に戻ります。



2.メモリー・スキャン・メモリー動作方法

手順

- ①M. SCNボタンを押してメモリースキャン動作にします。
- ②メモリースキャン動作中に、AJ/MS. Mボタンを押すとメモリースキャン・メモリー動作になります。表示部には、MS. M Scan.の文字が表示されます。
- ③メモリースキャン・メモリー動作中に、もう一度AJ/MS. Mボタンを押すとメモリースキャン・メモリー動作が解除され、Memory Scan. が表示されメモリースキャン動作になります。
- ④メモリースキャン動作または、メモリースキャン・メモリー動作を解除する時は、CCLボタンを押してください。メモリースキャン・メモリー動作になる前の周波数に戻ります。

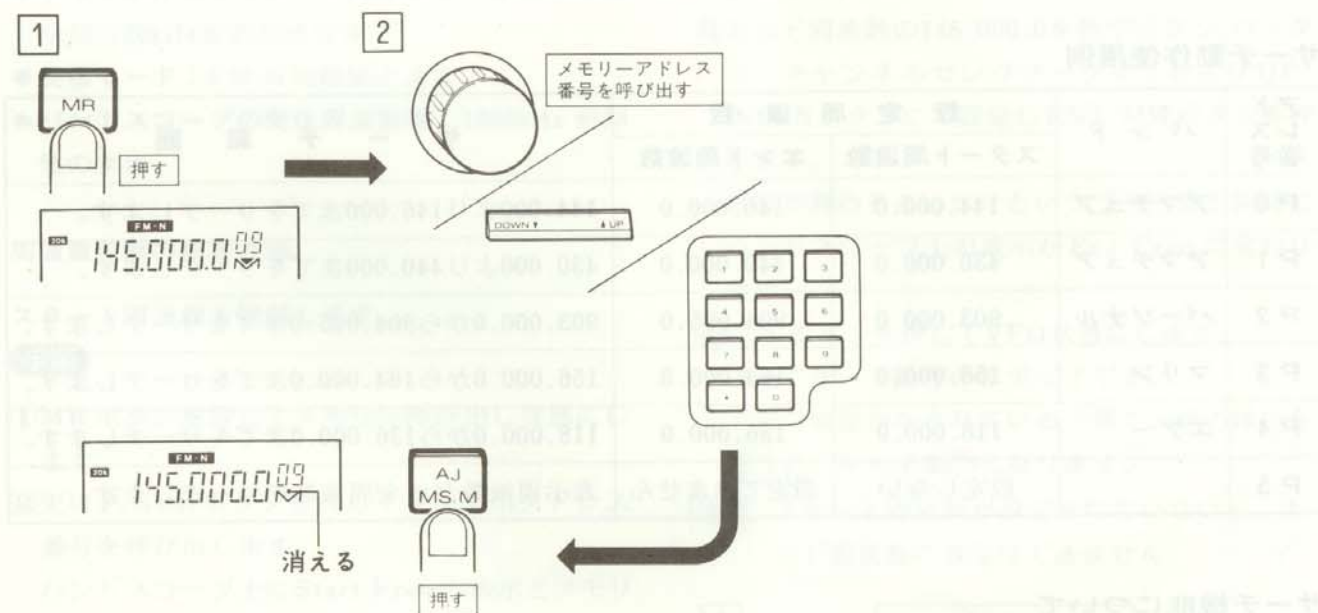


メモリー周波数の解除方法

3. メモリー・スキャン・メモリー周波数の解除方法

手順

- ① MR ボタンを押します。
表示部にメモリーアドレス番号と、Mが表示されます。
- ② 解除したいメモリーアドレス番号を呼び出し、AJ/MS.M ボタンを押すと▼が消えメモリー・スキャン・メモリー周波数でなくなります。



サーチ動作例

(アマチュアバンドをサーチする方法)

購入されて初めてサーチ操作する場合。または、リセット操作を行ったあとサーチ操作する場合。

アマチュアバンドをサーチする準備を行います。

表示部に下記内容を表示されます。

- **スタート周波数**：144.000.0
数字ボタン、ロータリーチャンネルセレクトーツマミまたは、UP/DOWNボタンを押してスタート周波数を表示させます。
- **チャンネルステップ**：STEPボタンを押して表示部に20kHzを表示させます。
- **受信モード**：FM-N初期値のまま
- **バンドスコープの受信周波数幅**：1000kHz 初期値のまま

周波数範囲の設定方法

スタート周波数を登録します。

手順

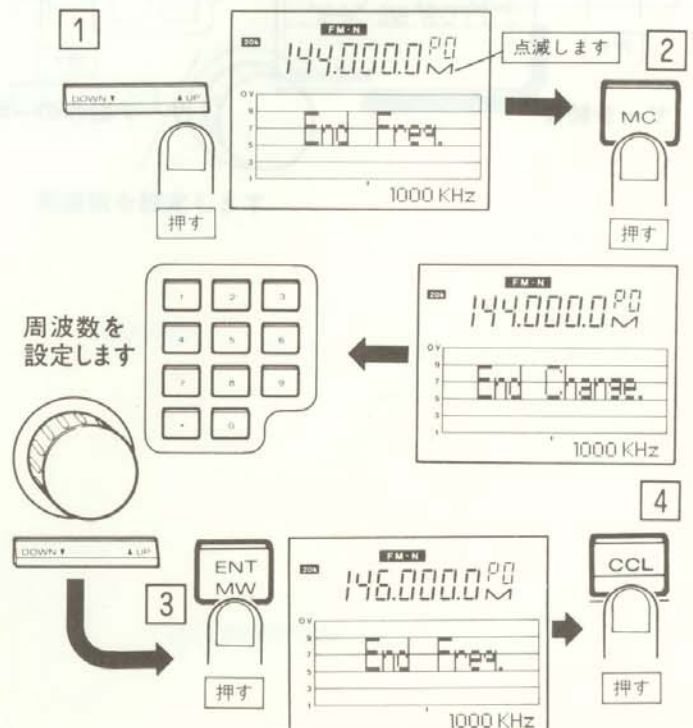
- ①MR ボタンを押してメモリー呼び出し状態にします。
- ②更に P. SER ボタンを押してサーチ用アドレス番号を呼び出します。
バンドスコープ上に Start Freq. の表示とメモリーアドレス番号 Px と M が表示されます。
 - 1)すでに周波数が登録されている場合Mは点灯しています。
 - 2)以前にメモリー呼び出し状態にしたことがある場合、メモリーアドレス番号は、以前呼び出したメモリーアドレス番号が表示されます。
- ③周波数が登録されていない場合は、ENT/MW ボタンを押します。
(144.000.0がスタート周波数として設定されました)
周波数が既に登録されている場合、MC ボタンを押して内容を変更してください。



エンド周波数を登録します。

- ①続いて、UPボタンを押します。
バンドスコープ上に End Freq. と表示されます。
- ②MC ボタンを押します。
バンドスコープ上の表示が End Change. と表示されます。
- ③エンド周波数の146.000.0を数字ボタン、ロータリーチャンネルセレクトーツマミおよびUP/DOWNボタンにて設定し ENT/MW ボタンを押します。
設定が終わると、ビーというブザー音と同時にバンドスコープ上の表示が End Freq. に変わります。
- ④CCL ボタンを押してVFO状態にします。
以上でサーチ動作の準備完了です。
上記の設定がなされている状態で次項の操作を行うと、サーチ動作になります。

注意 スタート周波数が設定されていないと、エンド周波数の設定はできません。



サーチ動作の方法

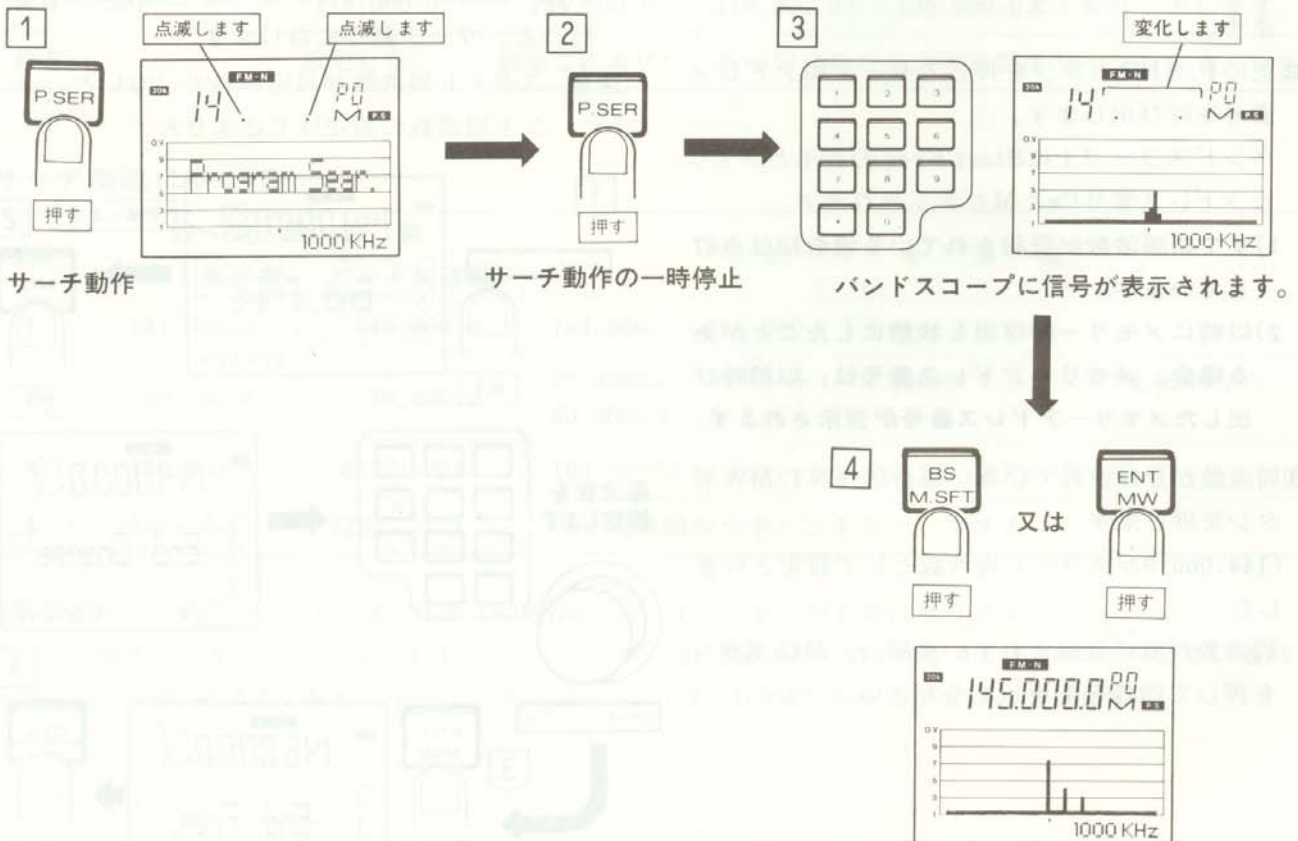
手順

- 1 P. SERボタンを押すとサーチ動作になり順次周波数に変化してゆきます。表示部にPxとMおよびバンドスコープにProgram Sear.と表示されます。この時表示部のMHz台およびkHz台のドットが点滅します。
- 2 サーチするバンドを変更するときは、サーチしたいバンドが登録されているアドレス番号と同じ数字ボタンを押して下さい。
- 3 サーチ動作を一時停止する時は、もう一度P. SERボタンを押して下さい。サーチ動作が一時停止します。
- 4 表示部に表示されているサーチ用アドレス番号と同じ数字ボタンを押すと、サーチ動作状態のままバンドスコープ上のProgram Sear.が消え、バンドスコープ動作になり、信号が目で確認できます。

- 5 BS/M. SFT又は、ENT/MWボタンを押すとサーチ動作が解除され、BS/M. SFT又は、ENT/MWボタンを押した時の周波数で受信状態になります。
- 6 CCLボタンを押すと、サーチ動作が解除されサーチ動作に入る前の状態に戻ります。

アドバイス

MCボタンは、メモリー周波数の書き換え(変更)を行う時、使用するボタンです。Start Freq.が表示されている時押すとStart Change. End Freq.が表示されている時押すとEnd Change.が表示されます。メモリー周波数呼び出しの時押すとMemory Change.が表示されます。Program Sear.が表示されている時P. SERボタンを押すと、サーチ動作が一時停止します。一時停止中は、MHz台およびkHz台のドットの点滅間隔が短くなります。もう一度押すと一時停止が解除されます。



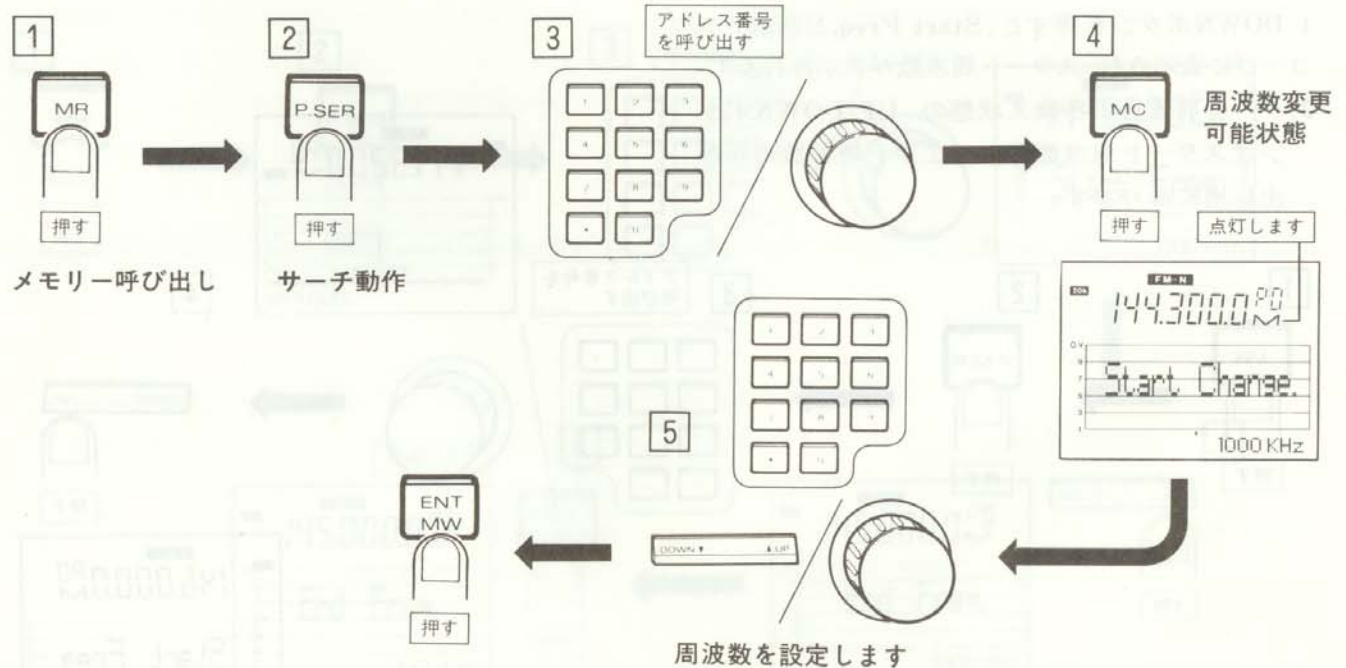
周波数範囲の変更方法

スタート周波数を変更する場合

手順

- ①MR ボタンを押します。
メモリーアドレス番号と、Mが表示されます。
- ②P.SER ボタンを押します。
- ③数字ボタンまたは、ロータリーチャンネルセレクトータツマミで変更しようとする周波数のアドレス番号を呼び出します。
バンドスコープには、Start Freq.が表示されます。
- ④MC ボタンを押します。
バンドスコープには、Start Change.が表示され

- ます。
スタート周波数の変更可能状態を表します。
- ⑤数字ボタン、ロータリーチャンネルセレクトータツマミおよびUP/DOWNボタンで新しい周波数を設定し、ENT/MWボタンを押します。ピーというブザー音がしてスタート周波数の書き換え完了を知らせると同時にStart Change.がStart Freq.に変わります。
- ⑥CCLボタンを押しVFO状態にもどしてください。



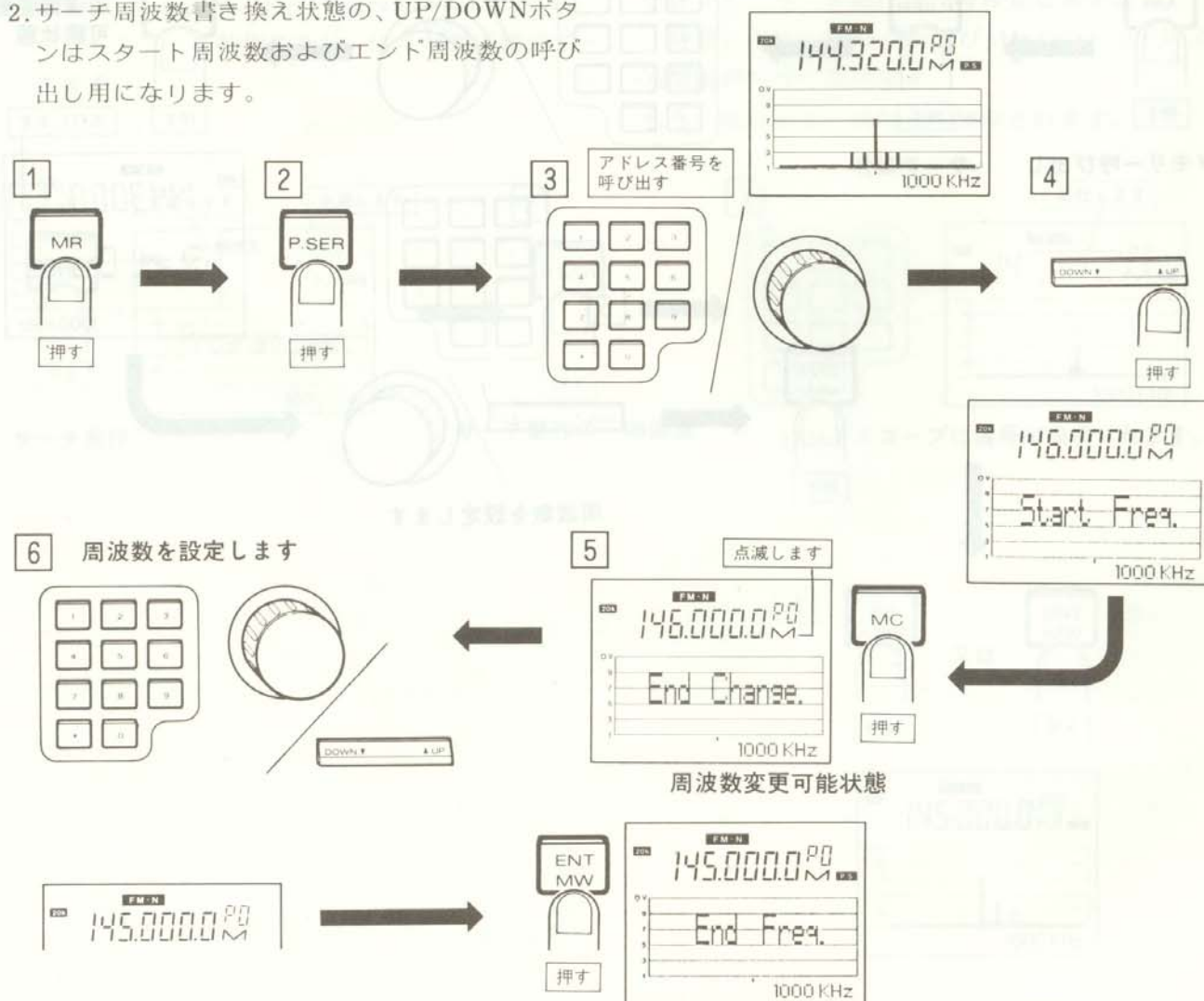
エンド周波数を変更する場合

手順

- ①MR ボタンを押します。
メモリーアドレス番号と、Mが表示されます。
- ②P. SERボタンを押します。
バンドスコープには、Start Freq.が表示されます。
- ③数字ボタンまたは、ロータリーチャンネルセレクトーツマミで、変更しようとする周波数のアドレス番号を呼び出します。
- ④UPボタンを押します。バンドスコープの、Start Freq.がEnd Freq.に変わります。
- ⑤MC ボタンを押します。
バンドスコープには、End Change.が表示されます。エンド周波数の変更可能状態を表します。
- ⑥数字ボタン、ロータリーチャンネルセレクトーツマミおよびUP/DOWNボタンで新しい周波数を設定し、ENT/MWボタンを押します。ピーというブザー音がしてエンド周波数の書き換え完了を知らせると同時にEnd Change.がEnd Freq.に変わります。
- ⑦CCLボタン押しVFO状態にもどしてください。

アドバイス

1. DOWNボタンを押すと、Start Freq.とバンドスコープに表示され、スタート周波数が表示されます。
- 2.サーチ周波数書き換え状態の、UP/DOWNボタンはスタート周波数およびエンド周波数の呼び出し用になります。



周波数範囲の消去方法

手順

- ①MR ボタンを押します。
- ②P. SERボタンを押します。
- ③数字ボタンおよびロータリーチャンネルセレクトツマミにて、変更しようとする周波数のアドレス番号を呼び出します。
バンドスコープには、Start Freq.が表示されます。
- ④UPボタンを押します。バンドスコープの、Start Freq.がEnd Freq.に変わります。
スタート周波数を消去する場合は、UPボタンを押す必要はありません。

- ⑤M. CLボタンを押します。

ピーというブザー音がしてエンド周波数が消去されます。

点灯してたMが点滅に変わります。

- ⑥CCLボタンを押しVFO状態にもどしてください。

注意

Start Freq.の内容を消去すると、End Freq.の内容も消去されます。End Freq.のみの消去は可能です。

